

2021.6.29 WEEKLY WRAP SCRIPT (日本語)

MARIANNE: 皆さん、こんにちは。さっそく株式市場を振り返ってみましょう。

それではABキャピタル証券株式会社のランスさんに今週の株式市場の報告をしていただきます。

MR. LANCE: こんにちは、聞こえますか？

MR. IEMURA: ええ、聞こえますよ。

MR. LANCE: さて、皆さん、おはようございます。今週のマーケットラップをお届けします。まず、米国市場です。先週、バイデン大統領が1.2兆円のインフラ投資を導入したことで、S&Pは新記録を達成しました。これは主に、道路や橋だけでなく、送電網の改善を目的としています。また、政府によれば、フィリピンの経済活動のためには、COVID-19の検疫規制の解除は今年中には望めないとのことです。デルタ型のような感染力の強い型が存在することから、政府は検疫規制の解除を検討する前に、約5,000万人にワクチンを接種する必要があると述べています。また、S&Pはフィリピンの今年の成長率予測を7.9%から6%に引き下げました。S&Pは、今年のフィリピンの成長率予測を2度目の引き下げとしたわけです。フィリピンでは、予防接種の普及が進んでいるもののまだ不十分であること、また、厳しい規制が残っているために移動手段が限られていることなどが原因です。また、フィリピン経済の70%が国内消費であることを考えると、これはフィリピン経済にとって悪いことです。次に、3月末時点での銀行預金残高は8%増の11兆8,000億円となりました。この増加は、超低金利にもかかわらず行われたもので、パンデミックの影響でまだ多くの不確実性があるため、消費者が消費意欲を失っていることを示しています。BSPが政策金利を2%に据え置き、3月以来の弱い水準となりました。企業ニュースとしては、フィリピン航空の取締役会が最終的なリストラ計画をまだ承認していないことや、マニー・ビラール氏がVLLとAlldayの今年の上場を目指していることなどが挙げられます。これは主に、BSPが金利を据え置くことを決定したことと、地域経済の持続的な回復のために支援を続けるという姿勢を改めて表明したことによるものです。では、次のスライドをご覧ください。これまでの純流出額は590億ペソで、今回の見通しも変わりません。投資家の皆様の信頼を回復したように思われますので、純外国人の買いがより頻繁に発生することを期待しています。では、6月の月次報告。ネットの外国人買いは、ブロックセールスを除いて約25億ペソまで積み上がりました。そして、今月を純外国人買いで終えることができれば、2019年10月以来の純外国人買いとなります。そして次のスライドをご覧ください。そして、国内のCOVIDの状況についてお知らせします。合計で約1,010万人が1回目のワクチンを750万人、2回目を250万人に接種しました。7日間の平均接種数は236,867人です。これは、集団免疫に換算すると約1.5年になります。次のスライドをご覧ください。これまでに国が確保できたワクチンは約800万本で、これは国の目標である7000万人の集団免疫の11.6%に相当します。そしてS&Pが述べたよ

うに、ゆっくりではありますが、国のワクチン接種率は時間の経過とともに向上していて、22万人であります。現在の接種率であれば、1.5年で集団免疫に達することができます。これは、国内のワクチン展開とワクチン供給が改善された結果です。次のスライドをご覧ください。フィリピンの株式市場は、これまでのところ、12%も下落していた地域での最悪のパフォーマンスから回復することができました。現在は2.6%の下落にとどまっています。バリュエーションの面では、次のスライドをご覧ください。

この会社はPE19.6倍と割高ですが、市場の5年および10年の過去の平均値であるPE18～18.2倍と比較すると、すでにプレミアムがついています。しかし、繰り返しになりますが、PEにはインデックスの成長予測や成長の可能性は組み込まれていません。そこで、フィリピンの株式市場の2年間の潜在成長率を含めると、ペッグレシオは0.47となり、フィリピンの株式市場は2年間の潜在成長率と比較して、まだ相対的に過小評価されていることになります。次のスライドをご覧ください。主要イベントの製造業PMIは7月1日、インフレ率は7月6日に行われます。最後に、短期的な見通しですが、これまでと同様に、心理的な抵抗線の近く、あるいは心理的なサポートレベルである69またはn68の近くでのプルバックで買いを提案します。投資家は国内のCOVIDの状況を監視しており、また政府はNCRをGCQの下に置くことを決定しましたが、いくつかの制限があり、それは国内が移動できないことを意味しています。これは、消費にとっても、国の復興の見通しにとっても悪いことです。私たちは、より持続可能な回復は、ワクチンの普及と供給の改善のペースにかかっていると考えています。それでは、今週のマーケットラップを終わります。ありがとうございました。

MR. IEMURA: ありがとうございます。ちょっとだけ質問があります。フィリピンの航空会社の状況について教えてください。PALの取締役会はまだ最終的な再建計画を承認していません。

MR. LEXTER: はい、その通りです。まだ承認を待っている段階ですが、今のところはPALを見守るしかありません。

MR. IEMURA: チャプター11を申請する可能性はありますか？

MR. LEXTER: そう、彼らは詳細について交渉しようとしているのだ。最終的には救済される可能性があると思いますが、今の政府は、PALの買収の可能性も含めて優先順位をつけておらず、必要不可欠なものに集中しています。

MR. IEMURA: なるほど、わかりました、Villar Familyですか。

MR. LEXTER: 先ほど、「All day Company」について触れました。

MR. IEMURA: 例えば、その会社はどんな会社ですか？

MR. LEXTER: ビスタランド。オールホームにも掲載されていますが、彼らは金物用品を扱っています。

MR. IEMURA: ハウジング内部のハードウェア？

MR. LEXTER: ええ、そうです。その通りです。

MR. IEMURA: ホームデポとかね。主に不動産関連の大家族ビジネスです。

MR. LEXTER: そう、彼らが始めたのは不動産だ。ゴールデンヘブンは。

MR. IEMURA: Golden Haven、それは何ですか？

MR. LEXTER: 墓場です。

MR. IEMURA: 墓地関連はすべてインフラと開発のため？

MR. LEXTER: あ、違う。死んだ人のためのものです。墓場です。

MR. IEMURA: ああ、cemetery。お墓ですね。なるほどね。わかった、わかった。ありがとうございます。フィリピンでは、墓地というのはいいい商売なのかな？

MR. LEXTER: 実は、縁起が悪い、縁起の悪い商売だという迷信があります。しかし、彼はそれを利用したのでしょう。もちろん、最終的には人は死ぬために必要になります。だから、本当は儲かる商売なんです。悪いスーパースターだと思う人もいますが。

MR. IEMURA: なるほどね。ありがとうございます。なるほど。このページ、16ページです。このグラフは、この青い線が1日あたりのワクチン接種数を示しています。

MR. LEXTER: これは7日間の平均値です。そうですね、でも実際には、今見てみると、すでに少なくとも30万人はやっています。

MR. IEMURA: なるほど。では、フィリピンで既にワクチンを接種した人の割合は合計で？

MR. LEXTER: いいえ、それは11%です。トータルで。投与されたワクチンの総数は1,000万本以上だと思います。約800万人が1回目の接種を受け、約200万人が完全に接種しています。

MR. IEMURA: ワクチン接種率はまだ10%に満たない。しかし、1日あたりの接種者数は増えています。

MR. LEXTER: そうですね、最低でも70万人は必要だと思います。12月までに群れの免疫を獲得するためには70万人が必要です。現在の段階では、集団免疫は約1年半後を目標としています。つまり、2022年半ばになります。

MR. IEMURA: 群集免疫は？

MR. LEXTER: これは理想的な目標で、医師によると、集団免疫に到達するためには、少なくとも70%のワクチンを接種する必要があるということです。集団免疫とは、言葉の意味からすると、一般の人々が病気に対して免疫を持つことを意味します。つまり、基本的には人口の大半にワクチンを接種する必要があるのです。

MR. IEMURA: そうなんですね。国民の7割がすでに予防接種を受けているなら、コロナはもう広がらないんですね。

MR. LEXTER: しかし残念ながら、イスラエルのように集団免疫が成立している国では、ワクチンを接種した国で再び感染が発生しています。現在、人口の約60～70%にワクチンを接種していますが、現在感染している人たちは、かつてワクチンを接種していなかった人たちであり、ワクチンの中にはデルタ型に強力なものもあると思います。そうですね、これからも気をつけていきましょう。

MR. IEMURA: なるほどね。これで終わりです。私の質問はこれで終わりです。ありがとうございました。

MARIANNE: レクスターさん、家村さん、松下さん、本日はありがとうございました。以上、ABキャピタル証券株式会社の週刊株式市場総括でした。来週もよろしくお願いします。